

<目次>

- 大幅水道料金の値上げは許さない！
- ◆川崎市の「ぜん息患者医療費助成制度」の廃止に反対します
- ▲お知らせコーナー
- ☆ 2022年第5回川崎市議会定例会 12/21 まで
- ☆ 12/13 本日・講演：人口減少時代における公共施設整備、都市整備の基本的な考え方
- ☆ 12/15(木)ぜん息・市役所前行動
- ☆ 12/24(土)「大倉ミカ・クリスマスジャズライブ」
- ☆ 2023/2/12(日)第12回原発ゼロへのカウントダウン in かわさき
- ★ 編集後記

●大幅水道料金の値上げは許さない！

「かわさきの安全でおいしい水道水を守る会」は、大幅水道料金値上げにつながる企業団の設備更新でなく、生田浄水場を復活させ災害に強い水道にするため、12月末まで請願署名に取り組んでいます。

——宛先は、神奈川県内広域水道企業団です。——

11月28日 神奈川県内広域水道企業団との質疑応答を西長沢浄水場で行いました。企業団からは依田一仁建設部長が出席し、事前に示した質問事項に丁寧に答えてくれました。

<質問> 企業団の更新計画の実態と、方針を決めた時期は。

5事業者（神奈川県、横浜市、川崎市、横須賀市、企業団）の会議録の公開を。

<回答>

企業団西長沢浄水場の再整備は3つの浄水場が終わった後取り掛かり、令和20～30年代に工事を予定している。

膜ろ過の実証実験を行っているが準備段階でまだ採用するということではない。更新にあたっては川崎市と調整する。

11施設を8施設にする計画は5事業者で再整備を検討し、各水道事業者の中で確認済み。廃止の方向性を検討することで各議会に報告済み。

5事業者の審議の会議録は、まだ、方向性を確認しただけなので非公開としている。

（未成熟案件のため）この審議は令和2年9月の5事業者水道事業連携推進会議で行われた。

寒川、小雀浄水場廃止を見据えたということは、廃止に向けた検討を行うということで、現在検討を進めている。

検討の結果によっては廃止しないこともあり得る。

※コメント：ここでは、議会答弁より丁寧な説明がありました。

横浜市では小雀浄水場廃止に反対の声も出ているので、この答弁は廃止反対の横浜市民にとって大切な回答です。

<質問>

更新計画でかかる経費、構成団体の負担は、1000 億を超え、構成団体の水道料金値上げにならないのか。

<回答>

西長沢の更新規模は今後の課題。適正なコストによる持続可能な水道を、企業団と事業体でコスト意識をもって検討。

現時点では料金の方向性は定まっていない。

※コメント：この回答は場合によっては西長沢の更新規模を縮小することもありうることを意味している。

「守る会」は地元生田浄水場を再整備したほうが費用も掛からず、災害に強い水道になると主張してきた。

川崎市上下水道局の試算では 114 億円で事前と同じ規模日量 10 万トンの浄水場ができる試算結果を提示している。

また生田浄水場の有効活用が行なわれるが、川崎市が用地を必要としたら返還することが事業者との契約書に明記されている。

連絡先 町井弘明

メール：hzc00317@nifty.com

電話 090-7944-5636

**◆川崎市の「ぜん息患者医療費助成制度」の廃止に反対します
～公害被害者の救済のための命綱を奪うな～**

川崎市地域医療審議会（会長=岡野敏明・市医師会会長）は、11 月 24 日、川崎市独自の「成人ぜん息患者医療費助成制度」と「小児ぜん息患者医療費支給制度」を取りやめ、幅広いアレルギー対策を推進する必要がある。」との提言を川崎市長に答申しました。

翌日、県保険医師会は「ぜん息は完治困難であり、最悪の場合は命を失う。生涯にわたって治療が必要な患者にとって、この助成制度は『命綱』である。」として、制度廃止に反対の談話を出しています。

制度廃止反対の運動を市民によびかけている「川崎公害病患者と家族の会」の大場泉太郎さんからの訴えです。

「成人ぜん息患者医療費助成条例」による認定者数は 8 8 6 2 人、「小児ぜん息患者医療費支給条例」による認定患者は 3 4 3 6 人で合計 1 2 2 9 8 人となっています。

「成人ぜん息患者医療費助成条例」適用者は毎月約 5 0 人、年間で 6 0 0 人の新規認定者が増え続けています。

また、「小児ぜん息患者医療費支給条例」認定者も増え続けているのです。

ぜん息患者にとって、「成人ぜん息患者医療費助成条例」と「小児ぜん息患者医療費支給条例」は命綱となっています。

「喘息予防・管理ガイドライン」は、「ぜん息の管理・治療の目的は、④現在の症状や薬の副作用がなく健常人と同様の日常生活を送る、⑤将来にわたり呼吸機能を維持し増悪やぜん息死を回避すること」としています。

さらに、「診断の遅れは治療・管理の遅れの原因となり、ぜん息の慢性化、重症化の可能性があると指摘しています。

「喘息が命にかかわることはほとんどなくなっている」という考えを持つ方もいますが、大きな間違いです。

川崎市が実施している制度が廃止されれば、受診抑制しなければならない患者が生まれ、いのちの危険にさらされることとなります。

絶対に廃止してはならない制度です。私たちは、市長に直接会って実情をお話したいと何度も申し入れています。市長は「文章でいねいに説明している。」と頑なに拒否をしています。

この制度の廃止を認めるわけにはいきません。

私たちは、緊急に「成人ぜん息患者医療費助成制度」と「小児ぜん息患者医療費支給制度」の維持・拡充を求める請願署名を開始しました。ぜひ、ご協力をお願いします。

連絡先 川崎公害患者と家族の会

電話 044-211-0391 FAX 044-233-4689

▲ お知らせコーナー

☆ 2022 年第 5 回川崎市議会定例会

会期は 11 月 28 日（月）から 12 月 21 日（水）まで

代表質問日程

<https://www.city.kawasaki.jp/980/page/0000136216.html>

※市議会各会派が、どれだけ市民要求実現に熱心かを傍聴して確かめましょう。

インターネット中継もあります。

<https://kawasaki-city.stream.jfit.co.jp/>

☆講演：人口減少時代における公共施設整備、都市整備の基本的な考え方

中山徹（奈良女子大教授）

2023 年川崎市議選共産党政策（第一次骨子案）

日本共産党市議団長・むねた裕之

川崎市総合自治会館 大会議室 1.2.3

☆福田市長は、ぜん息患者(1万2千人)の『いのち綱』を切るな！

12.15 市役所前行動
12/15 11時～12時半

☆「大倉ミカ・クリスマスジャズライブ」

世界平和への祈り
和田庸子さん、北口信夫さんを偲んで
12/24(土) ①15時 ②18時
かわさきゆめホール
一般：2500円 障がい者：学生 1000円
044-433-3003
hall@kawasakiyume.com
主催：ゆめごこちライブ実行委員会
<https://onl.sc/EQ77A4J>

☆第12回原発ゼロへのカウントダウン in かわさき(集会&デモ)

2023/3/12(日)11:00
ゲスト：金子勝(経済学者) 北村賢二郎(弁護士)
問合せ：044-211-0121(川崎合同法律事務所・三嶋健)
メール：kibounotsubasa@gmail.com(かもした元)
<https://genpatsuzero.net/>

★ 編集後記

メルマガ版「新しい川崎」が、今回で50号となりました。
1回だけ、発信のタイマーをセットし忘れ、1時間ほど遅れての発信となってしまいましたが、毎週火曜の朝6時発信をよくキープできたと自分でも感心します。
しかし何より、記事を提供してくださる市民運動の現場の皆様。毎回記事を用意する市古さんのご苦勞に感謝！
そして、時折聞こえてくる「メルマガ見てるよ」の声と、「もう、これが無いと困る」という励ましの声がカンフル剤。
いつの間にか生活必需品となっている方も居られるようで、頼られるとすぐその気になるお人好しでございます。
さて、文字ばかりで見づらいというお声もいただいております。
この形式は、ガラケー読者を大切にしたいという思いから、テキストオンリーで始めましたが、3Gから4Gへの切り替えが進んで、ガラケーでもHTMLが読めるようになりつつあります。
そこで、少しずつ、HTML形式への切り替えを進めています。
そのことで、「読めなくなった」「読みづらくなった」という方は、是非ご連絡ください

い。

連絡先は、

mailmag@newkawasaki.jp

まで、

よろしくお願ひします。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

メルマガを勧めてください！

発刊から間もなく1年ですが、読者がなかなか増えません。

来年は地方選挙。

メルマガは、選挙で大きな力になります。

「メルマガ読んでますか？」と声掛けを！

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆